

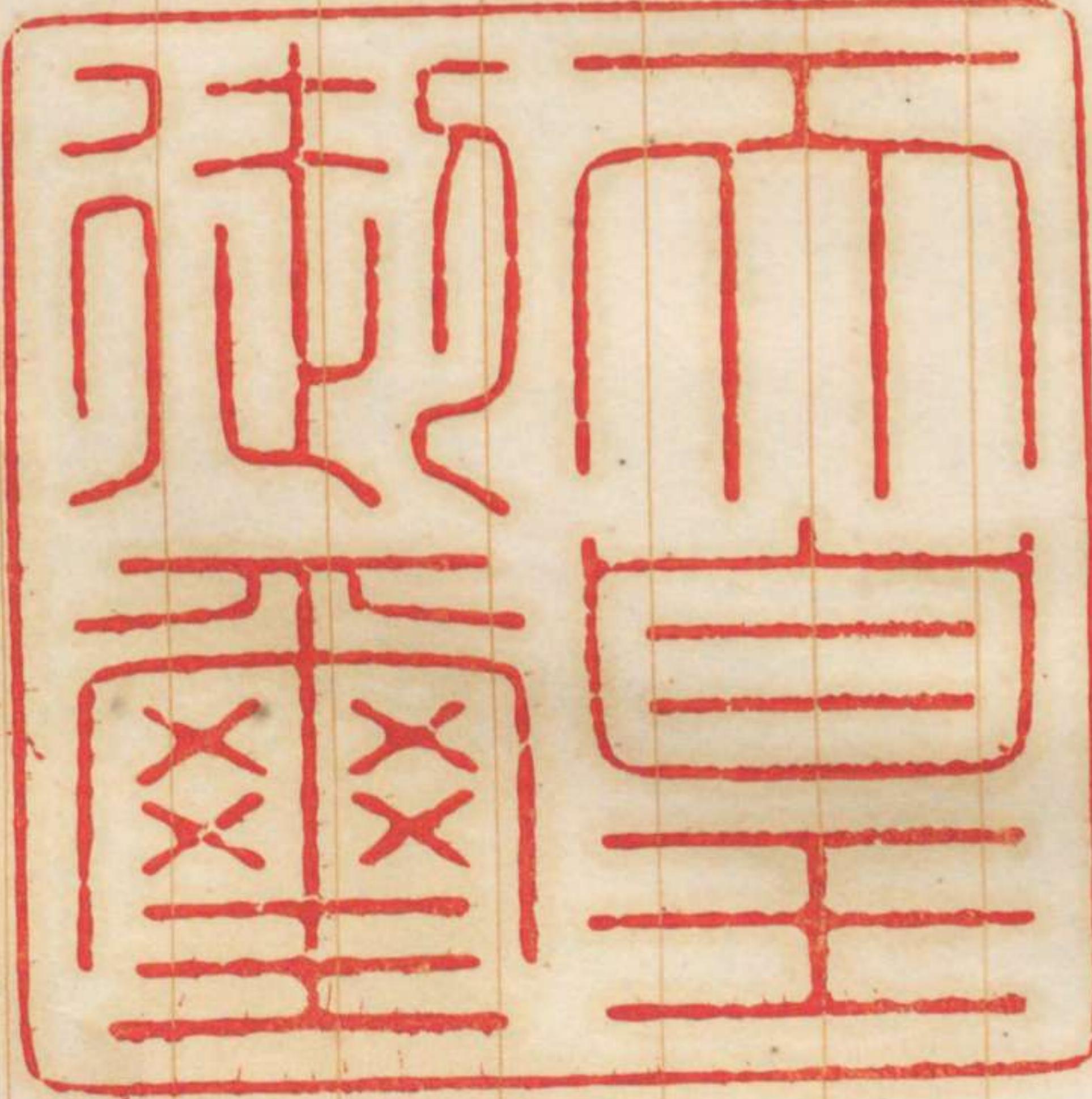
勅令第十二号

明治三十二年一月二十四日

内

周

睦仁



朕陸軍砲兵會議條例改正ノ件ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム



陸軍大臣子爵 桂

太郎

内閣

勅令第十二號

陸軍砲兵會議條例

第一條 陸軍砲兵會議ハ砲兵技術及兵器材料工兵會議ニ除クニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應シ且其改良進歩ヲ圖リ審查立案スル所トス

第二條 陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長 少將若クハ砲兵大佐

議員 各兵科佐官

内

附

臨時議員 各兵科各部上長官或ハ陸軍技師
審查官 砲兵佐官同大尉

第三條 前條ニ掲クル職員ノ外審查官
ノ下ニ准士官、下士竝屬、技手ヲ置ク

第四條 議長ハ陸軍大臣ニ隸シ議事ヲ
整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條 審查官ハ審查試験ノ事ヲ分擔
シ其事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯
説明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理

ス

第六條 議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ
兼補入

臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大
臣他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ命シ議
事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス
第七條 議長不在ノトキハ議事ニ關シ
テハ議員中高級故參ノ者其代理ヲ爲
スヘシ但議員ハ事務ニ關シ代理スル
コトナシ

第八條 陸軍砲兵會議ノ立案ニ係ル事

内

附

項ハ陸軍大臣ニ建議スルモノトス但
輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必
要ナシト認ムルモノニ在テハ議長ハ
直ニ之ヲ建議スルコトヲ得

第九條 陸軍砲兵會議ハ議事規則ヲ議
定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 歩、騎、工、輜重兵科ノ議員ハ其兵
科ニ關係アル議事ニノミ列セシムル
モノトス

第十一條 議事ニ關係アル議員二分ノ

一以上出立アラサレハ議事ヲ
開キ議決ヲ得ス但緊急ノ
場合ニ在アラサレハ議事ヲ得
分ノ一以上出立アラサレハ議事ヲ得
キ議決ヲナストヲ得

第十二條 議長ハ議事表決ノ數ニ與力
ルコトヲ得ス

第十三條 議事ハ出席議員ノ過半數ニ
依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議
長ノ決スル所ニ據ル

項ハ陸軍大臣ニ建議スルモノトス但
輕易ノ事項ニシテ議事ニ附スルノ必
要ナシト認ムルモノニ在テハ議長ハ
直ニ之ヲ建議ストヲ得

第九條 陸軍砲兵舊議ハ議事規則ヲ議
定シ陸軍大臣ノ可ヲ請フヘシ

第十條 歩、騎、工、機里兵科ノ議員ハ其兵
科ニ關係アル者ニノミ列セシムル
モノトス

第十一條

アル議員二分ノ



一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ
開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ
場合ニ在テハ議事ニ關係アル議員三分
ノ一以上出席スルトキハ議事ヲ開
キ議決ヲナスユトヲ得

第十二條 議長ハ議事表決ノ數ニ與力
ルコトヲ得ス

第十三條 議事ハ出席議員ノ過半數ニ
依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議
長ノ決スル所ニ據ル

第十四條 輕易ノ事項ニシテ議事ニ附
スルノ必要ナキモノハ陸軍大臣ハ單ニ
審査若クハ起案ヲ命スルコトアルヘ
シ

第十五條 試験ノ爲メ必要ト認ムルモノハ其種類ニ應シ陸軍戸山學校、陸軍騎兵實施學校、陸軍野戰砲兵射擊學校、陸軍要塞砲兵射擊學校ニ於テ實施セシムルモノトス又特ニ要スル場合ニ在テハ議長ハ師團長ニ稟議シ軍隊ヲ

シテ之ヲ實施セシメ若クハ必要ノ入馬材料ヲ使用スルコトヲ得
第十六條 砲工兵兩科ノ技術ニ跨カル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニアツテハ陸軍大臣之ヲ特達ス

第十七條 合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ與

カルモノトス本條第二項ノ場合ニ於
テハ高級故參ノ者モ亦同シ
議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ他
ノ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトアル
ヘシ但其議事了レハ直チニ解任スル
モノトス

第十八條 合同會議ハ總テ本會議ノ規

定ニ據ル

第十九條 合同會議議長ハ砲工兵兩會
議ノ審查官ヲシテ第五條ノ事項ヲ處

理セシムルモノトス

内閣

